資料２ 別紙

2019年度 三重県中学校英語授業改善のポイント

１．英語授業の半分以上を英語で行う

＜改善ポイント＞・教員自身が思い・考えを英語で発信しましょう！
・内容に焦点をあてたやり取りをしましょう！

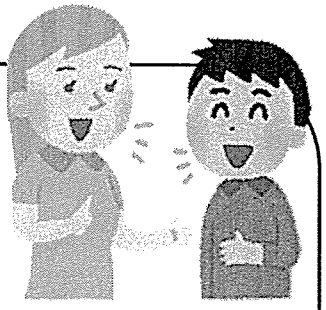
新学習指導要領には「生徒が英語に触れる機会を充実する」「授業を実際のコミュニケーションの場面とする」ために、授業は英語で行うことを基本とすることが示されました。これを受けて、三重県の中学校の先生の「授業で英語を使う割合」は７０．３％(2018年12月現在)と、昨年に比べて高くなりました。

２０１９年度は、教員が授業で使う英語の「内容・質」をさらに改善し、生徒の英語の発話量や、生徒と英語でコミュニケーションをする場面を増やしましょう！

【改善が必要な生徒とのやり取り】

T: What food do you like, S1?
S1: I like sushi. I like･･･maguro very much.
T: No, No. Maguro is not English. It's tuna.
(S1: No. かぁ～。本当は違うけど、「ハンバーガーが好き」とか、わかる表現で言っとけばよかった・・・。)
T: How about you, S2?
S2: I like fruits.
T: OK. How about you, S3? (← Tは、S2が「フルーツが好き」と言ったこと（発話内容）には応答せず、文法や英単語が正しかったことだけに着目してOKと言って次に進んだ。)
(S2：OK. のひとことでスルーかぁ。先生は何のために聞いてるんだろう・・・？)

【改善後の生徒とのやり取り例】



T: Today's topic is "my favorite food".
I like sushi. I like salmon very much.
What food do you like, S1?
S1: I like sushi, too. I like･･･maguro very much.
T: Oh, you like maguro. Me, too!
Everyone, do you know how we can say maguro in English?
S3: It's tuna.
T: So, you like tuna, right?
S1: Yes, I like tuna.
T: S1 likes tuna. How about you, S2?

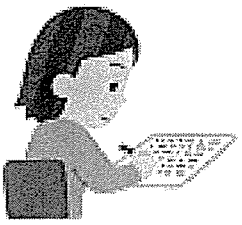
2．英語授業の半分以上の時間、生徒の英語による言語活動を行う

＜改善ポイント＞
・「何のために？誰に対して？」など、その言語活動の目的・場面・状況を意識した言語活動をすることで、「主体的・対話的で深い学び」につながります。
・練習は必要ですが、練習は言語活動ではありません。
（練習だけに終わらず、生徒が自分の考えや思いを表現することが大切です）

【改善が必要な例：「書くこと」の指導において】

There is (are) を使って、わが町の紹介文を書きましょう。町内のどこを紹介するのか、そこはどのような場所なのかを内容に含めること。

＜この設定の問題点＞
★なぜ紹介文を書くの？
★誰に対して紹介するの？
★なぜ使う言語材料を限定するの？



【改善後の例】

１か月後、このクラスにカナダからの留学生が来ることになりました。彼女にわが町のおすすめの場所を事前にメールで知らせてあげましょう。まず、すすめたい場所を各自１カ所ずつ選び、その場所の特徴やおすすめのポイントなどについて友達同士で情報交換してみましょう。友達から新たな情報が得られた場合はそれも含めて、メール文を書いてみましょう

＜広島県立教育センター　平木裕先生講演資料より＞

＜改善点＞
☆この文を書くにあたり、伝える相手や目的が明確にされているので生徒が場面をイメージしやすくなった。
☆まず話して伝えることで、書きやすくなる。話す→書くの順番で！
☆使う表現は生徒が選択している（思考・判断・表現をさせている）。

3．単元を通してつける力を明らかにして指導する

＜改善ポイント＞指導案を正しく書くことで、指導観がクリアになります。
指導案見本を参考にして、書いてみましょう！